

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	敬老事業	会計名称	一般会計		担当課	長寿介護課	
		予算科目	3 款 1 項 9 目	事業番号	1270	所属長名	室潤子
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	澤井伸剛	
法令根拠等	伊予市敬老会実施事業費補助金交付要綱、伊予市敬老祝金贈呈要綱				実施期間	【開始】	平成 17 年度
総合計画での位置付け	健康福祉都市の創造 健やかで生きがいの持てる高齢者福祉の実践					【終了】	平成 年度(予定) ■ 設定なし
総合計画における本事業の役割	高齢者福祉の根底にある「敬老」について、意識の醸成のための活動を行うことにより、豊かで生きがいのある老後の生活及び地域における支え合いの体制づくりを推進する。						
事業の対象	伊予市在住の75歳以上の高齢者			事業の目的	地域社会の進展に寄与された高齢者に敬意を表し、高齢者を地域で支えるという住民意識の啓発により高齢者福祉の増進及び地域コミュニティの強化を図る。		
事業の内容 (整備内容)	敬老週間(9/15~9/21)を中心に広報区等の団体が開催する敬老会に要する経費に対し、満75歳以上の住民1人当たり2,000円の補助金を交付する。 88歳(米寿)の方に対し、5,000円相当の記念品を贈呈する。 100歳の方に対し、市長が訪問し表彰及び50,000円の祝金を贈呈する。			昨年度の課題に対する具体的な改善策	補助金の実績報告書の添付書類として領収書の写しを追加した。75歳以上の高齢者が出席したくなるよう各実施団体が工夫を凝らした敬老会を開催した。		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	29年度実績	30年度予定	9月末の実績	30年度実績
直接事業費	14,099	14,623	0	0	0	14,118	祝賀対象者(満75歳以上総数)	人	6420	6477	6427	6427
財源内訳						0						
国庫支出金		0	0	0	0	0						
県支出金		0	0	0	0	0						
地方債		0	0	0	0	0						
その他		0	0	0	0	0	敬老会開催会場	箇所	67	78	58	77
一般財源	14,099	14,623	0	0	0	14,118						
職員の人工(にんく)数	0.45	0.45				0.45	上記祝賀対象者(敬老会開催地域対象者数)	人	6339	6477	6205	6309
1人工当たりの人件費単価	8,017	7,982				7,982						
※ 直接事業費+人件費	17,707	18,215				17,710						
主な実施主体	委託		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		補助金	敬老会出席者	人	2666	3239	2513	2620	
向こう5年間の直接事業費の推移(千円)					31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	5年間の合計		
					15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	75,000		
成果指標	指標	敬老会開催地区の満75歳以上の祝賀対象者の出席率			単位	区分年度	29年度	30年度	31年度	目標	毎年度	
					%	目標	50	50	50	50		
	指標設定の考え方	敬老会未実施地区を除く祝賀対象者のうち敬老会に出席した者の割合			⇒	実績	42.1	41.5				
指標で表せない効果	市民一人ひとりが高齢者を支えるという、社会福祉の基本となる住民意識を維持・向上させる。											

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		未実施の地区に近隣との合同開催など工夫した取り組みを勧奨したが、地区全体の高齢化により実施は困難であった。										
事務事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。 この事業では施策の目的を果たすことができない。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B	事業成果・工夫した点	実績報告書に領収書の写しを添付してもらうことにより、補助金の使途を確認することができた。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	3						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	市の積極的に関与・実施すべき事業である。 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。	3						
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B				
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1	既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	3						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に向け、効果を認めることができる。	3						
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1	現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B	事業の苦勞した点・課題	敬老会開催は自治区が主体となって実施し、市は補助金交付や対象者の情報提供及び案内ハガキ作成といった支援を行っている。しかし、自治区にとっては、市の事業を押し付けられた感があり、市の補助以上の出費が嵩み、金銭的のみならず人的負担も大きいといった問題がある。			
		コスト効率	5 4 3 2 1	活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	3							
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1	満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。	3							
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。 この事業では施策の目的を果たすことができない。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D			B	事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業継続と判断する。</li> <li><input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する</li> <li><input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する</li> </ul> (判断の理由) 事業目的の趣旨から、現段階では継続とする。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	2						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	市の積極的に関与・実施すべき事業である。 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。	3						
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	2	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	C					
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1	既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	2							
		施策への貢献度	5 4 3 2 1	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に向け、効果を認めることができる。	3							
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1	現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	2	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	C	所属長の課題認識	事業目的から、敬老事業の必要性は認識するが、具体的内容について今後、見直しが必要である。				
	コスト効率	5 4 3 2 1	活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	2								
	市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1	満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	3								

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒	指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。		
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 (低評価のため行政評価委員会に諮る。) 2次評価者評価のとおり、事業は継続と判断するが、事業自体の有効性・効率性について検討を行う必要がある。		
		<input type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。		

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老事業が一般化されはじめた時代と比べると、環境が大きく変化している。地域でできることは地域で行い、行政は、別のところにどう税金を投入するかということを考えなくてはいけない。</li> <li>・補助金である以上、証拠書類のチェックはしっかりとしていただきたい。費用対効果を見つつ、負担感のないようにしてほしい。</li> <li>・今後、担い手が不足し実施出来なくなりかねないため、手法の検討も必要だろう。</li> <li>・見直すなら、敬老会開催の枠組みを考え直す必要があるのではないか。抜本的な改善を行うべきだろう。</li> <li>・運営される地域の方は大変だとは思いますが、参加者の喜んでいるところを見ると、ぜひ続けていただきたい。</li> <li>・敬老会を通じて、地域コミュニティの継続に繋がるよう意識の向上を図ることが大切だと思う。</li> </ul>

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断	事業の方向性	コメント欄									
	<table border="1"> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td>さらに重点化する。</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>現状のまま継続する。</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>右記の点を見直しの上、継続する。</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>事業の縮小を行う。</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>事業の休止、廃止を行う。</td> </tr> </table>	<input checked="" type="checkbox"/>	さらに重点化する。	<input type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	<input type="checkbox"/>	右記の点を見直しの上、継続する。	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を行う。	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を行う。
<input checked="" type="checkbox"/>	さらに重点化する。										
<input type="checkbox"/>	現状のまま継続する。										
<input type="checkbox"/>	右記の点を見直しの上、継続する。										
<input type="checkbox"/>	事業の縮小を行う。										
<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を行う。										